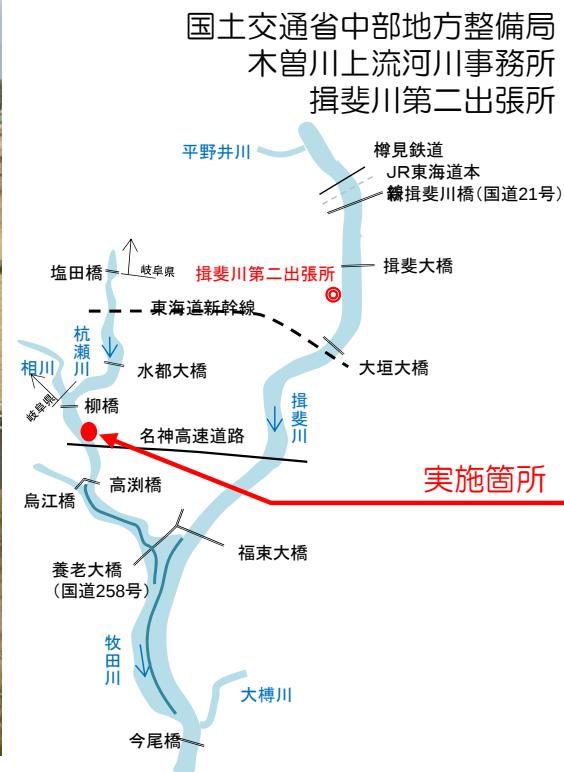




杭瀬川左岸3.8Kp付近（大垣市上笠地先）



『田園地帯を見下ろす、堤防すべりに大はしゃぎ！』 大垣特別支援学校の児童

- 大垣市南部を流れる杭瀬川で10月30日（木）、岐阜県立大垣特別支援学校（大垣市西大外羽）の児童が堤防の斜面を使った堤防での草すべりを楽しみました。
遊びを中心とした活動を通して、周りの子どもたちと円滑なコミュニケーションを図り、「生きる力」を身につけようと、30年以上前から続く恒例の取り組みで、小学部1、2年生10名程度が活動していました。
同校の先生6名が付き添い、堤防川裏の小段から、プラスチック製のソリに乗った児童らが、勢いよく斜面を滑り降りるたびに、静かな田園地帯に、児童の元気にはしゃぐ笑い声が響き渡っていました。

【大垣支援特別学校 小学部主事 吉田洋子さんのコメント】

・夏が終わり、学校周りの田に稲穂が実り始める秋になると、堤防での草すべりをする時期となり、小学部の子どもたちはわくわくし始めます。

子どもたちは、秋風を全身で感じながら、友だちや教師と一緒に楽しく堤防での草すべりをすることで、「楽しいな」「風が気持ちいいな」「一緒に滑ろう」等自分の感じたことや思ったことを言葉や笑顔でいっぱい表現してくれます。

また、安全に行うために、滑るコース、堤防に上るコースや滑る順番等簡単なルールを守って活動することも学んでいます。更に、ソリを自分で運びながら堤防を上ったり、上手くバランスをとってソリに乗ったりすることで、体の使い方覚え体力も身に付けていきます。堤防での草すべりは、子どもたちが多くのことを学べるとても楽しい場になっています。



堤防の斜面をソリで滑り降りる児童たち